

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：34311

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02473

研究課題名(和文) 日本近現代文学におけるフィクションの機能に関する総合的研究

研究課題名(英文) A comprehensive study on the function of fiction in Japanese modern literature

研究代表者

高橋 幸平 (Takahashi, Kohei)

同志社女子大学・表象文化学部・准教授

研究者番号：40581567

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近年学際的な研究領域に成長しつつあるフィクション論でのさまざまな議論を整理・参照しつつ、日本近現代文学作品やそれをめぐる言説を、フィクション性という点に注目しながら従来よりも整合的に解釈・記述しようとするものである。隔月に行われた研究会ではまず、フィクションの理論を、表象の内容・提示のされ方・文脈という三点から整理し、次に研究会の参加者が、田山花袋・谷崎潤一郎・松浦理英子・小川洋子・多和田葉子・村上春樹・夏目漱石などの作品について、それぞれフィクション論の観点から分析した。その成果の一部は国内学会や海外(東京・札幌・バンコク・パリ・チューリヒ)での学会やワークショップで発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、日本近現代文学研究領域は小説やそれにかかわる事象を問題にしなが、必ずしも西洋フィクション論への目配りが行き届いていたわけではなかった。この領域におけるフィクション概念の定義は錯綜していたのである。近年の分析美学や文学理論におけるフィクション概念を整理した本研究は、そのような錯綜した議論の評価の尺度になるだろう。また、日本近現代においてフィクションがどのように鑑賞者の現実理解に関与するのかを具体的に分析した本研究は、イデオロギー装置として働く文学の負の側面を指摘する近年の政治的・歴史的文学批評を批判的に発展させることができるだろう。

研究成果の概要(英文)：In this study, we aim to interpret Japanese modern literary works and analyze discourses about them in a more consistent manner than before, focusing on fictionality of those works and referring to various arguments in the theory of fiction, which has been more interdisciplinary recently. The study group was held every other month. First, we categorized theories of fiction into the three points: the contents of the representation, the way to be presented, and its context. Next, from the viewpoint of fiction theory, the participants of the study group analyzed the works of Katai TAYAMA, Junichiro TANIZAKI, Rieko MATSUURA, Yoko OGAWA, Yoko TAWADA, Haruki MURAKAMI, Soseki NATSUME, and so on. In the domestic or international academic societies (Tokyo, Sapporo, Bangkok, Paris, and Zurich), we presented some of the studies.

研究分野：日本近現代文学

キーワード：フィクション論 文学理論 読者論 メディア論 詩的言語論

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

架空の存在を含む命題の真偽を問題にした分析哲学の議論から、虚構に没入できる心的能力に関する認知科学の議論まで、フィクションは多くの研究領域から注目されるフィールドである。一方、日本近現代文学研究領域は小説やそれにかかわる事象を問題にしなが、必ずしも西洋フィクション論への目配りが行き届いていたわけではなかった。一九九〇年代以降この領域で重視されたのは政治的・歴史的文学批評だと言えるが、ときにイデオロギー装置としての文学の負の側面を指摘するこの批評は、それがたとえネガティブに働くにせよ、フィクションには鑑賞者の現実認識に働きかける力があるという信念を前提としている。フィクション論の議論のポイントの一つはまさに、フィクションがどのようなプロセスによって鑑賞者の現実理解に関与するのかという点にこそある。もちろん、日本の近現代文学研究において、フィクション概念がまったく議論されなかったわけではない。しかしまた、そこでのフィクション概念が論者によって多様かつ独特であったことも否めない。日常的にフィクション概念は単に「嘘」や「文学」として用いられることもあるし、逆に相対性を重視するポストモダニズムの文脈では、あらゆる表象にフィクション性を認める立場もある。フィクション概念をめぐる様々な立場と、それらの相互関係を整理するためには、共通したプラットフォームを確立することが必要だろう。同時に、フィクションをめぐる諸概念が整理されたことで、文学研究にどのような新たな視点がもたらされるかを模索することも求められる。

### 2. 研究の目的

本研究は、学際的な研究領域に成長しつつあるフィクション論でのさまざまな議論の集積、とりわけ構造主義文学批評の問題点を批判的に乗り越えようとする文学理論、また分析美学における議論を整理・参照しつつ、主に日本近現代におけるフィクションの典型である文学やそれをめぐる言説・現象を分析し、フィクション性という点に注目しながら従来よりも包括的かつ整合的に解釈・記述しようとするものである。具体的には、西洋におけるフィクション論のうち、特に言語によるフィクションに関する議論を体系的に整理した上で、得られた知見をもとに日本近現代における文学作品とそれをめぐる諸現象を分析・記述する。また、この研究成果は期間中に国内外で発表し、最終的には論集としての公表を目指す。

### 3. 研究の方法

本研究は日本文学・西洋文学・文学理論の各専門家による共同研究であるという点に特色がある。研究の方法は以下の通り細分化される。1. 西洋のフィクション論を体系的に把握するため、既訳・未訳の文献を調査収集した上で理論の史的展開を整理する。2. 日本近現代における文学作品群とそれをめぐる現象をフィクション論の概念を用いて分析し、従来よりも包括的かつ整合的に記述する。3. 研究成果を国内の研究会・学会で発表し、フィクション論の観点からなされる日本近現代文学研究の実践を報告する。4. 日本文学やフィクションを研究する海外の研究者と連携し、国際的な視点から日本語文学におけるフィクションの特性について議論する。5. 研究成果を広く問うべく論集の出版準備を進める。なお、1. ~ 5. の各作業には、専門分野を考慮して適切なメンバーを配分し、責任者の管理のもと研究計画を進める。また計画の進捗は毎月開催する研究会で報告し合い、各年度には各領域の専門家を招いて講演会を開催する。

### 4. 研究成果

(2017年度)

以下の通り研究を進め、その進捗を隔月の研究会(偶数月、計6回開催)で報告した。

#### 1. 西洋のフィクション論の整理・把握

フィクション論の基本文献として、ケンダル・L・ウォルトン『フィクションとは何か』を取り上げ、特に言語的表象体による想像の命令について具体的な近現代文学においてそれがどのようになされているかを検討した。また未訳であった、Schaeffer, Jean-Marie. 1999. Pourquoi la fiction? を取り上げ、その内容と、ジョン・R・サール『表現と意味』などとの連続性・差異について整理した。フィクションの中でも物語の性質を持った表象は、「言語による心的行為のシミュレーション」「発語内的行為のシミュレーション」「物語的同一性の交替」の複合体であるという理解をもとに、日本近代文学の再カテゴリー化について検討する視座を得た。さらに、国内の重要文献として、西村清和『フィクションの美学』を取り上げ、虚構世界の存在論的身分に関する過去の議論を整理しつつ、ウォルトン・サール・シェフェールの各フィクション論的立場を相対的に位置づけ把握した。

#### 2. 日本近現代文学のフィクション論的分析

1. での理論的な考察を経て、田山花袋・谷崎潤一郎・夢野久作・森敦について、各作家の作品や評論らをフィクション論的な視点から分析し再記述した。

#### 3. 研究成果の海外での発表・意見交流

8月にチュラーロンコーン大学(タイ)に赴き、文学部東洋言語学科日本語講座の教員とワークショップを行った。タイにおける日本文学・日本文化の受容の実態、また関心のあり方についてディスカッションを実施し、加えて翻訳とリアリティーの問題や重訳の問題など、フィクションの成立条件に関する言語レベルの問題点について議論した。

(2018年度)

以下の通り研究を進め、進捗を隔月の研究会(偶数月、計6回開催)で報告した。

1. 西洋のフィクション論の整理・把握

ヘイドン・ホホワイト『メタヒストリー 19世紀ヨーロッパにおける歴史的想像力』を取り上げ、その内容を歴史小説・史伝小説など日本近現代文学との関わりから検討した。また、竹内敏雄『アリストテレスの藝術理論』の分析を通じて竹内のアリストテレス解釈を現代のフィクション論の観点から再評価した。さらに著者である西田谷洋氏をゲストに著書『村上春樹のフィクション』の公開読書会を行い、報告者として中村三春氏、服部徹也氏を招いた。現代日本小説をフィクション論的に分析することの意義と困難さについて議論した。

2. 日本近現代における文学作品とそれをめぐる現象のフィクション論的分析

2017年度に行ったフィクション論の理論的研究と整理および1.での理論的な考察を経て、小島信夫・松浦理英子・小川洋子・筒井康隆・村上春樹について、各作家の作品や評論らをフィクション論的な視点から分析し再記述した。特に小川洋子「百科事典少女」は西田谷洋氏、松浦理英子『最愛の子ども』は飯田祐子氏による講演を研究会で行い、広く日本文学とフィクション論とに関する議論を行った。

3. 研究成果の海外での発表・意見交流

8月に開催されたタイ国日本研究国際シンポジウム2018(チュラーロンコーン大学)において、高橋・日高が「フィクション論と現代日本文学 -筒井康隆と村上春樹-」、久保・西川が「事実への欲望 -1920-30年代の『実話』ジャンルをめぐって-」と題してパネル発表を行った。

4. 研究成果の論集発刊

令和2年度の発刊に向けて、すでにフィクション論に関する編著がある大浦・久保・河田と高橋・日高とを中心に、論集の内容や構成、メンバーの執筆項目について検討し、論集の内容や執筆者をおよそ確定した。

(2019年度)

以下の通り研究を進め、その進捗を隔月の研究会(計5回開催、1回はコロナウイルス感染拡大のため中止)で報告した。

1. 西洋のフィクション論の整理・把握

昨年度までに精読したフィクションの理論の各観点を、表象の内容、提示のされ方、文脈という三点から整理し共有した。これらは次に述べる日本文学作品の具体的な分析のための基盤として共有された。

2. 日本近現代における文学作品とそれをめぐる現象のフィクション論的分析

2017-18年度に行ったフィクション論の理論的研究と、1.で述べた理論的整理を経て、佐藤春夫・大泉黒石・夏目漱石・稲垣足穂・島崎藤村・谷崎潤一郎について、各作家の作品や評論をフィクション論的な視点から分析した。特に多和田葉子『地球にちりばめられて』は榊原理智氏による講演を研究会内で行った。

3. 研究成果の発表・意見交流

11月に開催された日本近代文学学会・昭和文学学会・日本社会文学学会合同国際研究集会において、当研究会の成果をパネル形式で発表した(高橋(ディスカッサント)、日高・久保・服部徹也(パネル))。また、同月にはフランス(パリ)で開催された国際フィクション学会(ISFFS)において、高橋が、フィクション論の観点からなされる日本近現代文学研究の実践と問題点を当研究会の活動内容に基づいて発表し、さらに、大浦が、現代の(特に日本における)多様な表象文化の消費のされ方に注目しながらフィクション概念の拡大ならびにフィクション理論の更新の可能性について発表した。12月にはスイス(チューリヒ)において、チューリヒ大学TIMEJグループと「虚構における時間概念」に関するワークショップを行った。

4. 研究成果の論集発刊

フィクション論に関する編著がある大浦・久保・河田と高橋・日高とを中心に、論集の内容や構成、メンバーの執筆項目を確定した。さらに出版社との交渉をすすめ、令和2年度内の発刊に向けて執筆を進めている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 高橋幸平	4. 巻 70
2. 論文標題 王国の自家中毒：谷崎潤一郎「小さな王国」論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 同志社女子大学学術研究年報	6. 最初と最後の頁 148-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 日高佳紀	4. 巻 68巻11号
2. 論文標題 短篇小説の在処 村上春樹 The Elephant Vanishes（『象の消滅』）の構成と翻訳	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 日高佳紀	4. 巻 43
2. 論文標題 鈴木悦「悪魔と其の弟子」解題と本文 カナダの日本語新聞『大陸日報』社説欄に載った戯曲	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良教育大学国文 研究と教育	6. 最初と最後の頁 51-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 日高佳紀・高橋幸平	4. 巻 -
2. 論文標題 フィクション論と現代文学 筒井康隆・村上春樹テクストを読む	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 タイ国日本研究国際シンポジウム2018 論文集	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保昭博・西川貴子	4. 巻 -
2. 論文標題 事実への欲望 1920-30年代の「実話」ジャンルを巡って	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 タイ国日本研究国際シンポジウム2018 論文集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大浦康介	4. 巻 45
2. 論文標題 戦争と文学 桑原武夫「第二芸術論」と戦後日本の言論状況	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ユニテ	6. 最初と最後の頁 16-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大浦康介	4. 巻 -
2. 論文標題 フィクションについて最近考えた二、三のこと	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大浦康介退職記念論集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋幸平	4. 巻 86(6)
2. 論文標題 新興芸術とプロレタリア文学 : 赤木健介の理論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 628-639
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保昭博	4. 巻 初夏号
2. 論文標題 ポスト・トゥルースあるいは現代フィクションの条件	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 早稲田文学	6. 最初と最後の頁 62-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Kohei Takahashi
2. 発表標題 The Seminar of Japanese Literature and Fictionality
3. 学会等名 The International Society for Fiction and Fictionality Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋幸平 (ディスカッサント)
2. 発表標題 パネル「フィクション論で問い直す近代日本文学」
3. 学会等名 日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会合同国際研究集会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日高佳紀 (パネリスト)
2. 発表標題 谷崎潤一郎・文学形式とフィクション-拵へ物・空想・組み立て-(パネル「フィクション論で問い直す近代日本文学」)
3. 学会等名 日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会合同国際研究集会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保昭博（パネリスト）
2. 発表標題 フィクション理論の射程 J-M.シェフェール『なぜフィクションか？』をめぐって（パネル「フィクション論で問い直す近代日本文学」）
3. 学会等名 日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会合同国際研究集会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保昭博
2. 発表標題 遠くて近いフィクション論の世界 シェフェールと文学研究
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会2019年度秋季大会ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保昭博
2. 発表標題 フィクションはどこにあるのか？ フィクション理論の現在
3. 学会等名 現代フィクションの可能性
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保昭博
2. 発表標題 フィクションの現在 ジャン＝マリー・シェフェール『なぜフィクションか？』をめぐって
3. 学会等名 文学としての人文知
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akihiro Kubo
2. 発表標題 Subjectivity in Description - How Japanese Writers adapted Naturalism,
3. 学会等名 Winter Institute 2020, International Center for Critical Theory
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋幸平 (ディスカッサント)
2. 発表標題 パネル「普遍と土着を行き来する文学理論の用語-- 『日本の文学理論 アンソロジー』の英訳作業に見え隠れするもの--」
3. 学会等名 日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会合同国際研究集会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasusuke Oura
2. 発表標題 Pour une the'orie de la fiction comme show, performance, entertainment
3. 学会等名 The International Society for Fiction and Fictionality Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日高佳紀・高橋幸平
2. 発表標題 フィクション論と現代文学 筒井康隆・村上春樹テキストを読む
3. 学会等名 タイ国日本研究国際シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 久保昭博・西川貴子
2. 発表標題 事実への欲望 1920-30年代の「実話」ジャンルを巡って
3. 学会等名 タイ国日本研究国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 日高佳紀
2. 発表標題 谷崎潤一郎「異端者の悲しみ」のレトリック
3. 学会等名 日本近代文学学会例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 久保昭博
2. 発表標題 Le retour au classicisme est-il un paradoxe de la modernité ?
3. 学会等名 名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター主催シンポジウム「前衛芸術と古典主義 1880年-1945年」
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 日高佳紀・西川貴子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 224
3. 書名 建築の近代文学誌 外地と内地の西洋表象	

1. 著者名 ジャン＝マリー・シェフェール・久保 昭博	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 352
3. 書名 なぜフィクションか？	

1. 著者名 大浦康介（編著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 466
3. 書名 大浦康介編『日本の文学理論：アンソロジー』	

1. 著者名 日高佳紀（共著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 466
3. 書名 大浦康介編『日本の文学理論：アンソロジー』	

1. 著者名 久保昭博（共著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 466
3. 書名 大浦康介編『日本の文学理論：アンソロジー』	

1. 著者名 河田学（共著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 466
3. 書名 大浦康介編『日本の文学理論：アンソロジー』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	日高 佳紀  (Hidaka Yoshiki)  (00335465)	奈良教育大学・国語教育講座・教授   (14601)	
研究分担者	大浦 康介  (Oura Yasusuke)  (60185197)	京都造形芸術大学・芸術学部・非常勤講師   (34319)	
研究分担者	久保 昭博  (Kubo Akihiro)  (60432324)	関西学院大学・文学部・教授   (34504)	
研究分担者	河田 学  (Kawada Manabu)  (00569923)	京都造形芸術大学・芸術学部・教授   (34319)	